太陽地球系観測データ解析参照システム[STARS] における情報共有のしくみ(専門知を共有知へ)

國武 学\*1、山本 和憲\*1、鵜川 健太郎\*2、木村 映善\*3、 加藤 久雄\*1、長妻 努\*1、亘 慎一\*1、村山 泰啓\*1、 村田 健史\*1

\*1 情報通信研究機構(NICT)
\*2 株式会社セック
\*3 愛媛大学

### 概要

- ◎背景
- ◎STARSの概略
- ◎ 情報共有のしくみ
  - 1. データダウンロード情報・プロット情報の交換。
    Stars Project List (SPL)というXMLファイルの活用。
    インタラクティブな協働解析の実現。
    特定の目的のためのSPLの集積と再利用。
  - 専門家による事象の登録
     Event list としてデータベース化。
     多分野の専門家の知識の集積。
     Event list の共用。
- ◎まとめ

## ◎背景

Solar-Terrestrial data 異なる領域のデータ。 分野横断データ。 多研究機関のデータ。

各データにそれぞれの専門家。各研究者にとっては、非専門分野がある。

情報の交換・共有。

各研究者の専門知識を、有効に生かすことが大事。

協働解析の重要性。

STARSの機能を活用

# © STARSの概略

Solar-Terrestrial data 異なる領域のデータ。 分野横断データ。 多研究機関のデータ。 各データにそれぞれの専門家。 各研究者にとっては、非専門 分野がある。

協働解析の重要性。

各研究者の専門知識を、有効に生かすことが大事。

### STARSの機能

情報の交換・共有。

多様なデータに対し、メタデータ収集により、データの存否をチェック。 選択したデータをダウンロード。

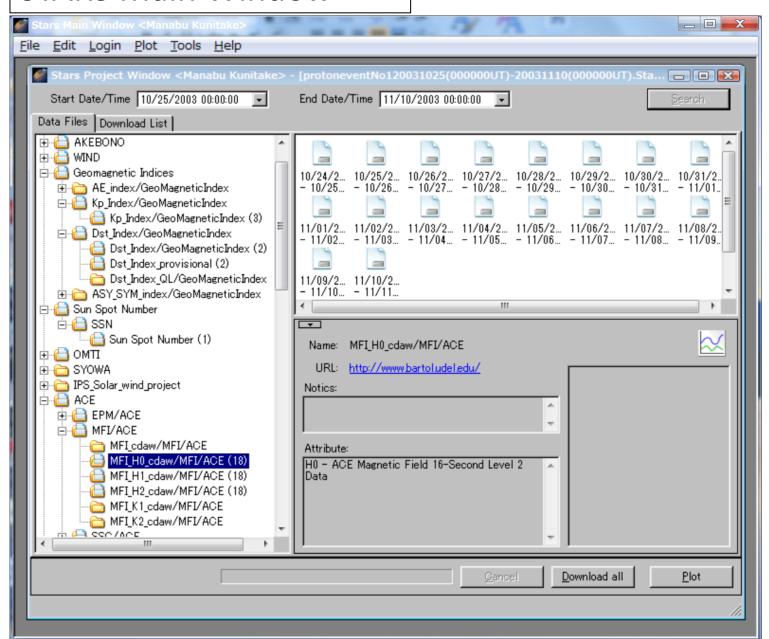
同じ時間軸での統合プロット。

データダウンロード・プロット情報のファイル保存(SPL)。協働研究者とのSPLを用いた情報交換、再利用、SPL の改訂。

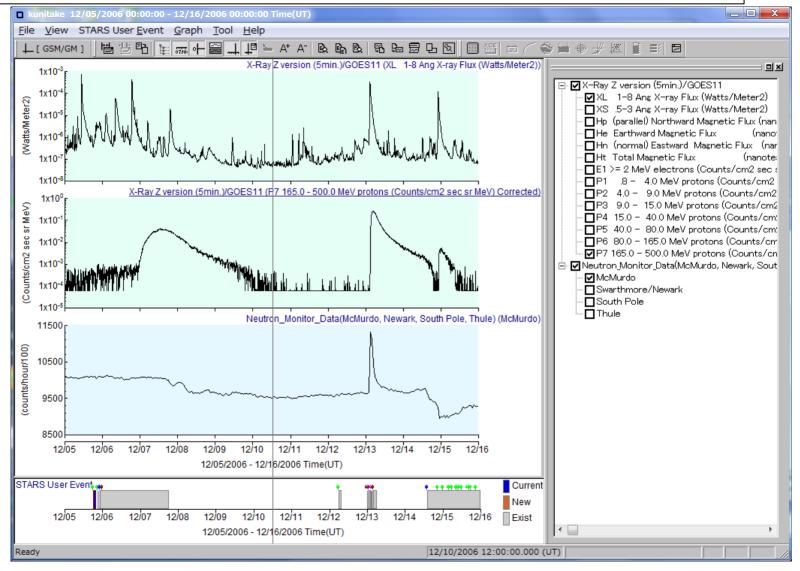
それぞれの専門家による事象の登録。データベース化(event list)。

#### STARSにおけるメタデータ、データの流れ **Facilities** (Data providers) HTTR **FTP** FTPS/SFTP 6 Download data files **RSS RSS RSS** Download Agent (DLA) 7 SOAP Response with DIME-Attachment 5 SOAP Request with Download Request 2 SQL Query 1 SOAP Request Web application DataSet Web Service Meta-DB 4 SOAP Response with Meta Data User

#### **STARS Main Window**

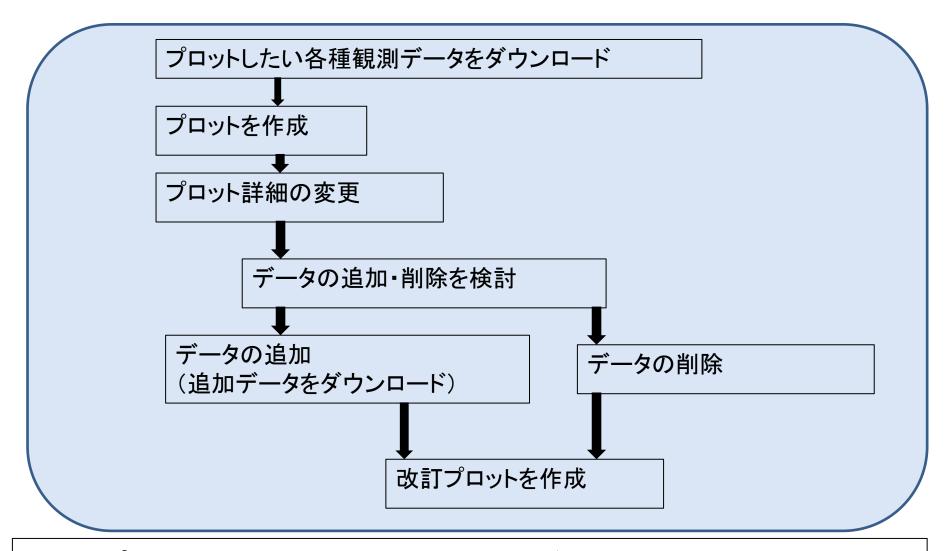


### STARS の統合プロット(combined plot) window



X-ray flux (top panel) and Proton flux (middle panel) are observed by GOES satellite. Cosmic ray counts (bottom panel) are observed by neutron monitors on the ground.

- ◎情報共有のしくみ
  - 1. データダウンロード情報・プロット情報の交換。
    Stars Project List (SPL)の活用。
    インタラクティブな協働解析の実現。
    特定の目的のためのSPLの集積と再利用。



改訂プロットを作成後、最終的にダウンロードされている データ種や上記の改訂プロットに関する情報が、Stars Project List (SPL)というXMLファイルに保存できる。

### Stars Project List (SPL)の内容

```
igexampleGLE20061205(000000UT)-20061216(000000UT).StarsPi
ファイル(E) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<StarsEventList st="2454074.5" et="2454085.5">
  <User id="300007" name="kunitake">
    <Mission id="460000" name="Magnetogram" />
    <Team id="140100" name="NICT" />
    <Group id="300000" name="Space Environment Group/NICT" />
    <Config>
      <WindowState>0</WindowState>
      <WindowTop>21</WindowTop>
      <WindowLeft>30</WindowLeft>
      <WindowWidth>640</WindowWidth>
      <WindowHeight>507</WindowHeight>
      <VerticalSplitterPos>200</VerticalSplitterPos>
      <HorizontalSplitterPos>113</HorizontalSplitterPos>
      <PropertyPane|Status>True</PropertyPane|Status>
    </Config>
  </User>
  <Mission id="170000" name="G0ES">
    <Team id="170550" name="G0ES11">
      <Data id="151951" name="X-Ray Z version (5min.)/GOES11"</pre>
folder="D151951" plot="False">
        <File name="Z1150612.TXT" st="2454070.5" et="2454101.5" />
        <Component name="XL" plot="True" />
        <Component name="P7" plot="True" />
      </Data>
    </Team>
  </Mission>
  <Mission id="470000" name="Neutron Monitor">
    South Pole, Thule)" folder="D470101" plot="False">

<File name="BRI2006.txt" st="2453736.5" et="2454101.5" />
        <Component name="McMurdo" plot="True" />
      </Data>
```

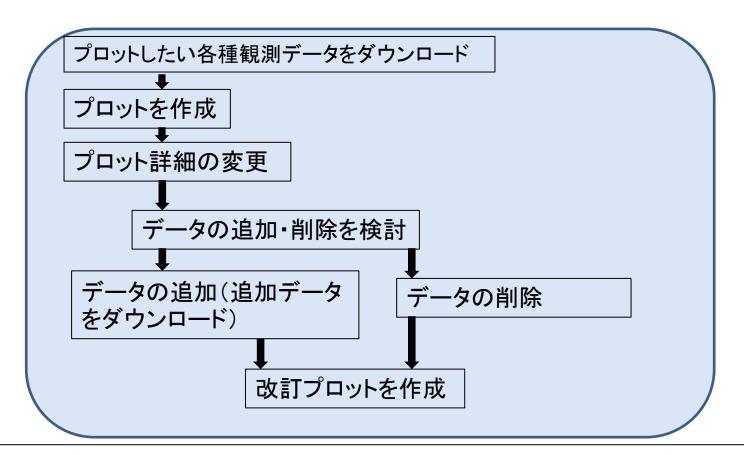
### SPL に格納されているもの

(1)どのデータを用いたか (2)プロットされている時系 列の開始時刻・終了時刻 (3)プロット詳細オプション

等

#### ファイルはXML形式

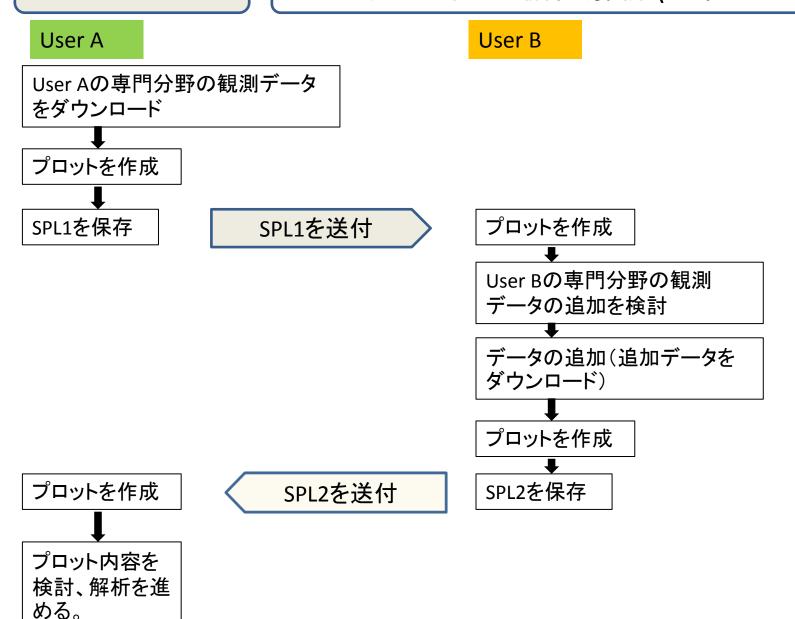
ファイルサイズ (数kBから数百 kB)



SPLを利用すれば、ユーザーは次回のSTARS起動時に、 上図の諸プロセスを再度行わずに簡単に最終プロットを作成できる。SPLはSTARSユーザーならば誰でも利用可能。 他のユーザーが、元のSPLに変更を加えることで、さらにプロットを改訂・発展させることもできる。

#### Use case 1

### インタラクティブな協働解析(二者による)



インタラクティブな協働解析(多者による) Use case 2 User A User B User C User Aの専門分野の観 測データをダウンロード プロットを作成 プロットを作成 SPL1を保存 SPL1を送付 User Bの専門分野の観 測データの追加を検討 追加データのダウンロード プロットを作成 SPL2を送付 プロットを作成 SPL2を保存 User Cの専門分野の観測 データの追加を検討 追加データをダウンロード プロットを作成

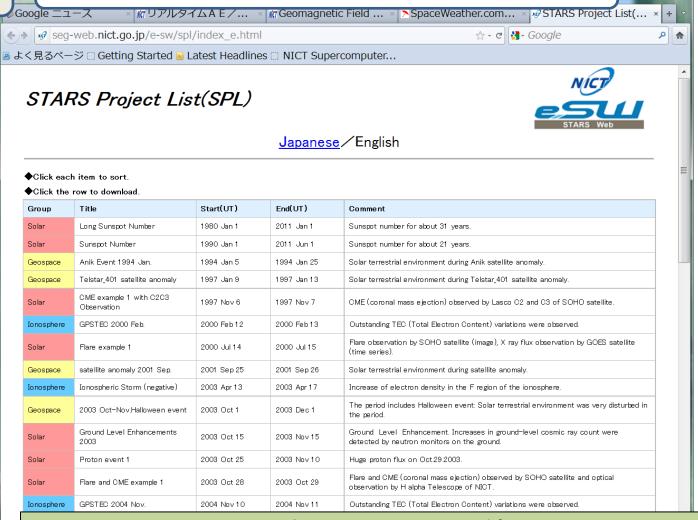
SPL3を保存

SPL3を送付

Use case 3

#### 特定の目的のためのSPLの集積と再利用

\_ D X



宇宙天気に関する事例サイトを構築した。 ここからSPLそのものをダウンロードできる。

http://seg-web.nict.go.jp/e-sw/spl/index\_e\_html

- ◎情報共有のしくみ
  - 専門家による事象の登録
     Event list としてデータベース化。
     多分野の専門家の知識の集積。
     Event list の共用。

### Event listの活用

### [背景]

各分野の専門家は、その分野の現象について、深い知識、解析経験等を持っている。

### [Event の登録] (専門家による情報付加)

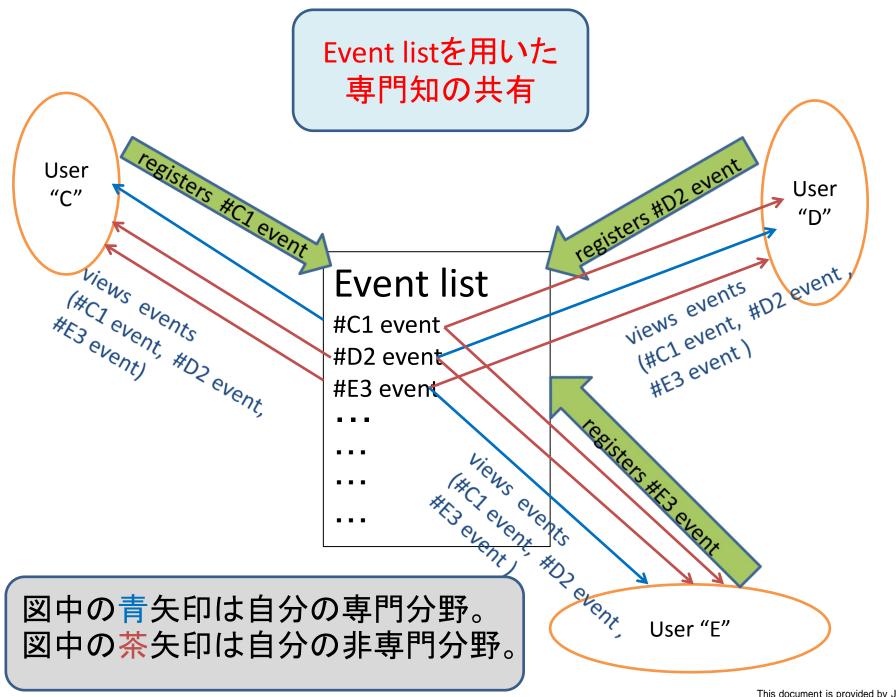
当該データの中に、顕著な現象や、ある定義を満たす現象等を認めた場合、"Event"としてSTARS上で、容易に登録できる。

[Event のデータベース化](多分野の専門家の知識の集積)

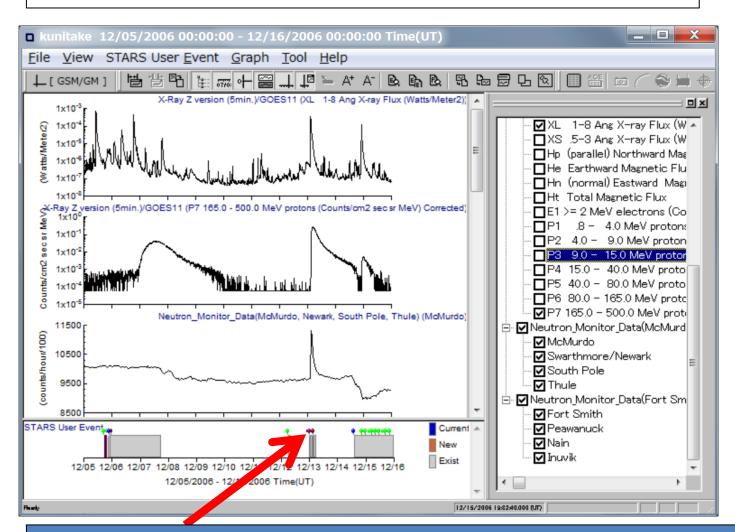
登録されたEventはSTARS内でEvent listに蓄積される。

### [Event list 共有] (多分野についての情報共有)

STARSのユーザーならば、Event listの情報を閲覧可能。例えば、分野Dの専門家が、分野Cのデータとの比較解析を行なう場合に、分野Cに関するEvent情報が役に立つ(分野Dの専門家にとって、分野Cは非専門なので)。

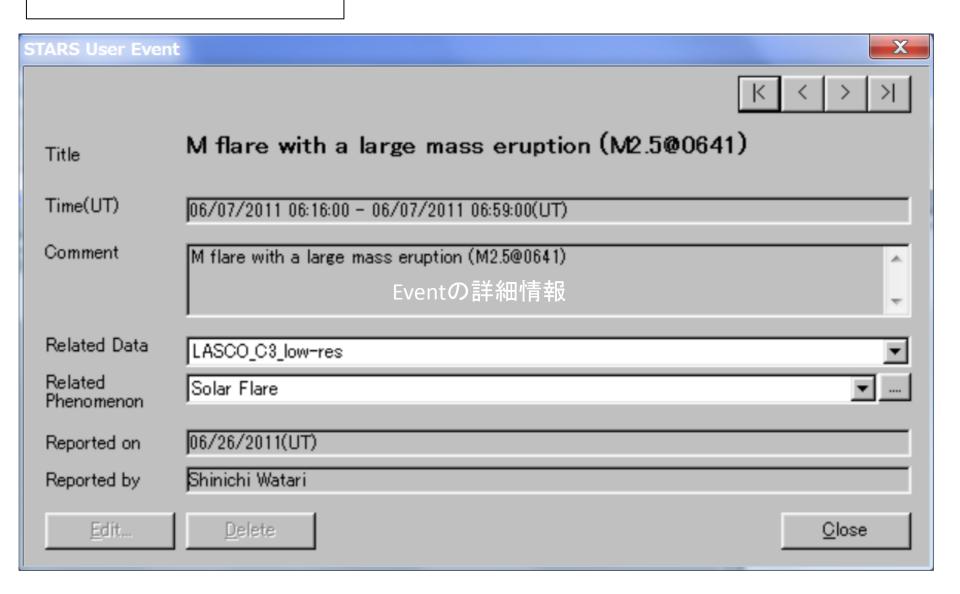


### どんなEventが登録されているのかを知る方法

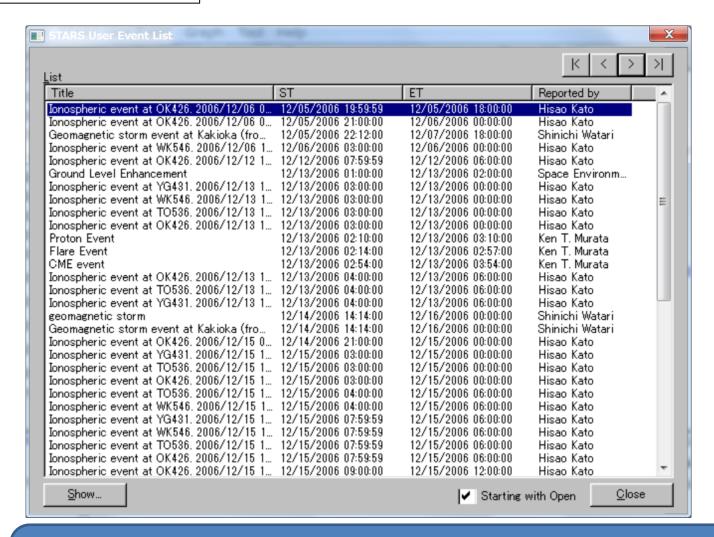


各ピンマークが各Eventを示している。これをダブルクリックするとそのEventの詳細情報を見ることができる。

#### Eventの詳細情報の例



#### **Event list**



解析期間内にあるEventをlistの形式で見ることも可能。その中から知りたいEventを選択してEvent詳細情報を見ることも可能。

# さらに・・・

Event listをSTARS以外でも利活用。

SPL と Event listの連携。

SPL内の項目を増やす(プロットに関するnote等)。

# まとめ (1)

太陽地球系観測データ解析参照システム

(Solar-Terrestrial data Analysis and Reference System) [STARS] は、多分野、多種のデータを収集し、一括表示できるシステムである。

多分野、多種のデータのすべてに、一人の研究者が深い知識を持つわけではない。解析において、専門家の知識が共有できれば、非専門部分をカバーできる可能性が高まる。

STARSの持つ機能の中で、専門家の知識を共有するしくみとしてStars Project List (SPL) と Event list がある。

# まとめ (2)

#### Stars Project List (SPL)

SPLには、データダウンロード・プロット情報が格納されている。 SPLの作成・交換・更新を介して、データ種の取捨・プロットの改良ができる。

SPLの活用は、複数の研究者の協働解析を促進させる可能性がある。

#### **Event list**

専門家が認めた事象をEventとして、STARS上からEvent listに容易に登録できる。

多数の専門家がEvent登録を行うことでEvent listデータベースが構築される。多分野の専門家の知識が集積される。

Event listは、STARSユーザー誰もが参照可能。情報の共有が容易。非専門分野の研究者にとって、Event情報は、解析に有益な参考情報となる。